

ようじえんだより 2021年度7月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

7月主題『心ゆくまで』

主題聖句：勇気を出しなさい。 ヨハネによる福音書16章33節

- ☆ 0歳児：保育者の祈りや讃美歌に親しむ。水や砂に触れて、夏の遊びを楽しむ。食事、睡眠を十分にとり健康に過ごす。
- ☆ 1～2歳児：保育者と一緒に祈る。夏ならではの遊びを楽しみ、心を解放する。気持ちを丁寧に受け止めてもらいながら、自分からやってみようとする。(保育者は個々の気持ちに寄り添いながら、「やってみよう」という思いを大切にする。
- ☆ 3歳児：讃美歌を歌ったりお祈りすることが生活のひとこまとなる。水遊び、フィンガーペインティングなど心が解放される遊びの楽しさを味わう。自分の思いを保育者や身近な友だちに伝えようとし、態度や言葉で表す。
- ☆ 4～5歳児：祈りの時に、一人ひとりが共にいてくださるイエス様を感じあって「アーメン」と声を合わせる。遊びの中で、表現すること・探求すること・交わることを心ゆくまで楽しむ。心身を解放して遊び過ごす中、夏を感じ楽しむ。(保育者は家庭と連携して、健康な生活リズム・生活習慣を大切に支える。

Q. 子どものわがままに手を焼いています。「歩きたくない!」「行きたくない!」と要求が通るまでグズグズです。私は決して過保護ではなく、むしろ厳しいほうだと思うのですが…
(5歳 H太郎ママ)

A. 子どもは自分の思いを聞いてくれる人の言うことは聞いてくれます。

H太郎ママさんのしんどい思いが伝わってきます。子どもには「もう少しちゃんとしてほしい」「このまま小学校に上がってどうなるんだろう」という思いになって焦りも出てきますよね。ただ気になったのは文面の最後の言葉です。「過保護ではなく厳しいほう」と自己分析されていますが、児童精神科医の佐々木正美先生は「子どもが求めることに応じるという意味での過

保護なら子どもはダメになりません。むしろ子どもが求めてもないのに何でもしてしまったら、『ダメ!』『～しなさい!』という禁止・命令口調が多くなる過干渉や子どもの求めを無視する放任は子どもの生きようとする力を奪う」とおっしゃっています。H太郎くんの要求はすべて受け入れられなくてもこの部分は聞いてあげるとか、H太郎くんの思いを聞くだけでもグズるといった形の自己主張は減ると思います。

実はこれは子どもだけでなく大人も一緒でしょう。命令ばかりしてくる人のことは聞きたくないし、怖いから、上司だから、と仕方なく聞いている大人も多いはず。自分の思いを共感をもって聞いてくれる存在って、子どもだけじゃなく大人も必要としています。

園長:久保田愛策

年間主題『共に喜んで～すべての歩みの中～』

主題聖句：一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、

一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

新約聖書 コリントの信徒への手紙 I 12章26節